

## はてなの缶詰

医療者の「衣服の色」が違うのはなぜ？



病院を表現する際は、よく「白」がイメージカラーとして使われます。病院といえは、医師や看護師が制服として白い衣服をまとうている姿を想像する方も多いのではないのでしょうか？しかし、兵庫医科大学病院では職種や場所によって着る服の色を変えています。

### 医療者の衣服の特徴

医療者が病院で着ている衣服にはいくつかの特徴があります。

- ・患者さんが不快な思いをしないよう、「清潔感」がある。
  - ・患者さんへの感染を防ぐために、付着した汚れを見つけやすく、なっている。
  - ・医療者を薬品や火傷から守る素材でできている。
  - ・病院の職員と分かるように統一した色と形をしている。など。
- このように、医療者が着ている衣服は、患者さん・医療者の双方にとって大切な役割を果たしています。

### 看護師や検査技師が「色つきの衣服」を着る理由

兵庫医科大学病院では、看護師は「水色」、検査技師は「薄緑色」の衣服

を着ています。これらの色は、見た人に「安心感」と「清潔感」を与え、また「汚れにも気が付きやすい」という特徴があります。つまり、多くの患者さんと接し、血液などの検体に触れる可能性がある職種には適した色なのです。

### 医師が手術の時に着用する衣服は「青い」

診察の際、医師は白い衣服をまとうますが、手術の際は「青い衣服」に着替えます。

一般的に手術を行うと出血します。また、皮膚の下の筋肉などは赤いため、医師は常に「赤色」を見ることがになります。長時間赤色を見た後に、白衣などを見ると、赤色が「残像」として残ってしまい、目の前が見えにくくなることも。そのため、手術の際は安全を考慮して、医師の目に「残像」が残らない「青い衣服」を着用しているのです。